

**ANHYDROUS COMPOSITION AND USE THEREOF AS COSMETIC,
PHARMACEUTICAL OR SANITARY GOOD****Publication number:** JP2000212042**Also published as:****Publication date:** 2000-08-02 EP1023890 (A1)**Inventor:** SABINE GRIMM; YURIERU CLAVER US6344205 (B1)**Applicant:** OREAL FR2788692 (A1)**Classification:****- International:** A61K8/18; A61K6/00; A61K8/00; A61K8/37; A61K8/81;

A61K8/88; A61K8/89; A61K8/891; A61Q1/02;

A61Q1/06; A61Q1/10; A61Q5/00; A61Q19/00;

C08L83/04; C08L83/12; A61K8/18; A61K6/00;

A61K8/00; A61K8/30; A61K8/72; A61Q1/02;

A61Q5/00; A61Q19/00; C08L83/00; (IPC1-7):

A61K7/02; A61K7/027; A61K7/032; A61K7/48

- European: A61K8/37; A61K8/81E; A61K8/88; A61K8/891;
A61Q1/02**Application number:** JP20000013115 20000121[Report a data error here](#)**Abstract of JP2000212042**

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a soft anhydrous composition comfortable to the skin without imparting greasiness or stickiness at the time of application. **SOLUTION:** This anhydrous composition comprises isononyl isononanoate present at a concentration of at least 10 wt.% based on the total weight of the composition, a powdery compound present at a concentration of at least 10 wt.% based on the total weight of the composition, an oily phase further containing a silicone oil and the silicone oil present at a concentration of >=5 wt.% based on the total weight of the composition in the anhydrous composition comprising the oily phase containing the isononyl isononanoate and a granular phase containing the powdery compound, especially a cosmetic, a dermatological or a sanitary good and a pharmaceutical composition.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-212042
(P2000-212042A)

(43)公開日 平成12年8月2日 (2000.8.2)

(51)Int.Cl.⁷

A 61 K 7/02
7/027
7/032
7/48

識別記号

F I

A 61 K 7/02
7/027
7/032
7/48

テマコト[®] (参考)

P

審査請求 有 請求項の数20 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願2000-13115(P2000-13115)
(22)出願日 平成12年1月21日 (2000.1.21)
(31)優先権主張番号 9900829
(32)優先日 平成11年1月26日 (1999.1.26)
(33)優先権主張国 フランス (FR)

(71)出願人 391023932
、ロレアル
L'ORÉAL
フランス国パリ、リュ・ロワイヤル 14
(72)発明者 サビース・グリム
フランス・92290・シャトネイ・マラブ
リ・アヴニュ・デュ・パルク・8
(72)発明者 ユリエル・クラヴエル
フランス・75013・パリ・リュ・アルベ
ル・7/
(74)代理人 100064908
弁理士 志賀 正武 (外7名)

(54)【発明の名称】 無水組成物、その化粧品としての、薬剤学的、または衛生品としての使用

(57)【要約】

【課題】 適用時に脂っぽさやべた付きを付与することなく、柔軟で、皮膚に対して心地良い無水組成物を提案すること。

【解決手段】 イソノニル=イソノナノアートを含有する油相と粉末化合物を含有する粒状相とを含んで成る無水組成物、特に、化粧品、皮膚科学的、衛生品、および薬剤学的組成物において、イソノニル=イソノナノアートが組成物の全重量に対して少なくとも10重量%の濃度で存在し、粉末化合物が組成物の全重量に対して少なくとも10重量%の濃度で存在し、油相がさらにシリコーン油を含有し、前記シリコーン油が組成物の全重量に対して5重量%以上の濃度で存在する無水組成物が提供される。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 イソノニル=イソノナノアートを含有する油相と粉末化合物を含有する粒状相とを含んで成る無水組成物、特に、化粧品、皮膚科学的、衛生品、および薬剤学的組成物において、イソノニル=イソノナノアートが組成物の全重量に対して少なくとも10重量%の濃度で存在し、粉末化合物が組成物の全重量に対して少なくとも10重量%の濃度で存在し、油相がさらに、シリコーン油を含有し、前記シリコーン油が組成物の全重量に対して5重量%以上の濃度で存在することを特徴とする無水組成物。

【請求項2】 イソノニル=イソノナノアートが、組成物の全重量に対して、10から40重量%、好ましくは15から35重量%の範囲の濃度で存在することを特徴とする、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】 油相がまた、イソノニル=イソノナノアート以外の脂肪エステルを、組成物の全重量に対して、0.1から30重量%、好ましくは5から20重量%の範囲であってもよい濃度で存在することを特徴とする、請求項1または2に記載の組成物。

【請求項4】 脂肪エステルが、分岐C₈—C₁₆エステル、たとえばイソヘキシル=ネオペンタノアート、合成エステル、たとえば式：R¹COOR²（式中、R¹は6から29の炭素原子を含有する高級脂肪酸残基を示し、R²は3から30の炭素原子を含有する炭化水素ベースの鎖を示す）のオイル、たとえば、フルセリン油、イソプロピル=ミリスタート、2-エチルヘキシル=パルミタート、イソステアリル=ネオペンタノアート、イソプロピル=ステアラート、イソプロピル=ラノラート、イソトリデシル=イソノナノアート、2-オクチルドデシル=ステアラート、2-オクチルドデシル=エルカート、イソステアリル=イソステアラート、アラキジル=プロピオナート、2-オクチルドデシル=ベンゾアート；ヒドロキシ化エステル、たとえばイソステアリル=ラクタート、オクチル=ヒドロキシステアラート、オクチルドデシル=ヒドロキシステアラート、ジイソステアリル=マラート、トリイソセチル=シトラート；ポリオールエステル、たとえばプロビレングリコール=ジオクタノアート、ネオペンチルグリコール=ジヘプタノアート、ジエチレングリコール=ジイソノナノアート、およびペントエリスリトールエステル；および／またはこれらの混合物から選択されることを特徴とする、請求項3に記載の組成物。

【請求項5】 シリコーン油が、組成物の全重量に対して、5から55重量%、好ましくは5から25重量%、さらに好ましくは10から25重量%の範囲の濃度で存在することを特徴とする、請求項1ないし4のいずれか1項に記載の組成物。

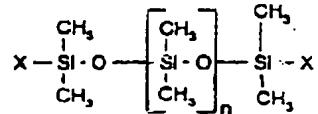
【請求項6】 シリコーン油が、

— 3から8のケイ素原子、好ましくは4から6のケイ

素原子を含有する環状揮発性シリコーン、たとえば、シクロテトラジメチルシリコサン、シクロ pentatジメチルシリコサン、またはシクロヘキサジメチルシリコサン；
— 2から9のケイ素原子を含有する直鎖状揮発性シリコーン、たとえば、ヘキサメチルシリコサン、ヘキシリルヘプタメチルトリシリコサン、およびオクチルヘプタメチルトリシリコサン；

— 一般式：

【化1】



（式中、

— Xは—CH₃またはOHであり、
— nは、0から2000の整数である）
で表わされ、好ましくは粘度が25°Cで0.06m²/s
以下のポリジメチルシリコサン；
— アルキルメチルポリシリコサン、特に、ポリ(C₁—C₂₀)アルキルシリコサン、たとえばフェニルシリコーン油またはセチルジメチコーン；
— ジメチルシリコサン／メチルアルキルシリコサンタイプのシクロポリマー；
— 任意にフェニル化またはヒドロキシ化したポリシリコサンであるシリコーンゴムであって、たとえばポリジメチルシリコサンまたはポリフェニルシリコサン油、またはシクロメチコーン等の、溶媒に溶解した場合、約200,000から1,000,000の高分子量と、500,000mPa.sよりも大きい粘度を有するシリコーンゴム；
— ポリジメチルシリコサンまたはポリフェニルシリコサン油、またはシクロメチコーン等の、溶媒に溶解した場合の、単位R₃SiO_{1/2}、R₂SiO_{2/2}、RSiO_{3/2}、およびSiO_{4/2}（式中、Rは水素、C₁—C₆アルキル基、またはフェニル基である）の組み合わせを含有するシリコーン樹脂；
および

— これらの混合物から選択されることを特徴とする、請求項1ないし5のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項7】 フェニルトリメチコーンを含有しないことを特徴とする、請求項1ないし6のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項8】 油相が、イソノニル=イソノナノアート、脂肪エステル、およびシリコーン油、および／またはこれらの混合物のみからなることを特徴とする、請求項1ないし7のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項9】 イソノニル=イソノナノアートが、油相の全重量に対して、少なくとも15重量%、好ましくは少なくとも30重量%の濃度で存在することを特徴とする、請求項1ないし8のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項10】 粉末化合物が、充填剤および／または

ピグメントおよび／または光沢剤および／またはこれらの混合物から選択されることを特徴とする、請求項1ないし9のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項11】 充填剤が、微球体、特にシリカ、テフロン、ナイロン、タルク、マイカ、および／またはカオリンの微球体から選択されることを特徴とする、請求項10に記載の組成物。

【請求項12】 充填剤が、組成物の全重量に対して、5から40重量%、好ましくは10から25重量%の範囲の濃度で存在することを特徴とする、請求項10または11に記載の組成物。

【請求項13】 ピグメントが、二酸化チタン、二酸化ジルコニウム、二酸化セリウム、酸化亜鉛、酸化鉄、酸化クロム、フェリックブルー、カーボンブラック、バリウムレーキ、ストロンチウムレーキ、カルシウムレーキ、アルミニウムレーキ、シリコーン化合物で、たとえばPDMSおよび／またはポリマーで、特にポリエチレンおよび／またはアミノ酸で被覆されたピグメント、および／またはこれらの混合物から選択されることを特徴とする、請求項10に記載の組成物。

【請求項14】 ピグメントが、組成物の全重量に対して、少なくとも2重量%、好ましくは8から15重量%の範囲の濃度で存在することを特徴とする、請求項13に記載の組成物。

【請求項15】 さらにワックスを含有することを特徴とする、請求項1ないし14のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項16】 ワックスが、動物由来のワックス、たとえばビーズワックス、鯨ロウ、ラノリンワックス、およびラノリン誘導体、植物ワックス、たとえばカルナバワックス、カンデリラワックス、オーリキュリーワックス、木ロウ、ココアバターまたはコルク繊維ワックス、またはサトウキビワックス、

— 鉱物ワックス、たとえばパラフィンワックス、鉱油ワックス、亜炭ワックス、またはミクロクリスタリンワックス、またはオゾケライト、

— 合成ワックス、たとえば、ポリエチレンワックス、ポリテトラフルオロエチレンワックス、およびフィッシャートロッシュ合成で得られたワックス、

— シリコーンワックス、特に置換した直鎖状ポリシリコン；ポリエーテルシリコーンワックス、16から45の炭素原子を含有するアルキルまたはアルコキシジメチコン、アルキルメチコン、

— 25°Cで固体の水素化オイル、たとえば水素化ヒマシ油、水素化ホホバ油、水素化ヤシ油、水素化獸脂、水素化ココア油、及び、25°Cで固体の脂肪エステル、たとえばC₂₀—C₄₀アルキル＝ステアラート、

— および／またはこれらの混合物から選択されることを特徴とする、請求項15に記載の組成物。

【請求項17】 ワックスが、ポリエチレンワックス、

ミクロクリスタリンワックス、カルナバワックス、水素化ホホバ油、カンデリラワックス、および／またはこれらの混合物から選択されることを特徴とする、請求項16に記載の組成物。

【請求項18】 ワックスが、組成物の全重量に対して、少なくとも5重量%、好ましくは6から15重量%の濃度で存在することを特徴とする、請求項16または17に記載の組成物。

【請求項19】 メークアップ製品、特に、ファンデーション、コンシーラ、フェースパウダー、アイシャドウ、アイライナー、マスカラ、またはリップスティック、またはボディ用マークアップ製品の形態であることを特徴とする、請求項1ないし18のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項20】 皮膚および／または頭皮の非治療的なトリートメント方法、特にマークアップ方法であって、請求項1ないし19のいずれか1項に記載の組成物を、皮膚または粘膜および／または頭皮に適用することからなる方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、無水化粧品組成物、特に、化粧品、皮膚科学的、衛生品、または薬剤学的組成物に関する。これらの組成物は、頭皮を含む皮膚のケア製品、および／または、皮膚、粘膜（唇またはまぶたの内側）、半粘膜（唇）、ケラチン繊維（髪、まつげ、爪）のマークアップ製品、またはボディ用マークアップ製品を構成するものであってもよい。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】脂肪相を含有するマークアップ組成物は、一般的には、表皮への良好な付着性、つけ心地の良さ、保護能力、および非透水性フィルム形成能力のために、化粧品に使用されている。無水マークアップ製品は一般的には、コンパクト固体またはクリームの形態であってもよい。ジャーまたはチューブの形態のパッケージから指を用いて満足する方法で適用可能であるため、クリーミーな粘稠性を有する組成物が求められる可能性がある。これらは一般的には、経時に安定な粘稠性を得るために、オイルおよびワックスを含有する。

【0003】しかしながら、このタイプの製品の欠点の1つは、大量の脂肪物質を含有するため、皮膚に脂っぽさを残し、べたつき、延ばしにくいくことである。

【0004】本発明の目的は、改善された化粧品特性と良好な安定性を有する、無水組成物、特に流込製品を提供することである。特に、求められているのは、適用時に脂っぽさやべた付きを付与することなく、言うまでもなく、柔軟で、皮膚に対して心地良い組成物である。

【0005】出願人は、予想しないことに、そして驚くべきことに、特定の比率で粉末化合物と組み合わせた特

定の脂肪エステルを用いることによって、皮膚に容易に伸び、脂っぽさやべたつき感がなく、優れた化粧品特性、特に良好な柔軟性と良好な安定性を有する、無水組成物が得られることを見い出した。

【0006】

【課題を解決するための手段および発明の実施の形態】本発明の1つの主題は、したがって、(i) イソノニル=イソノナノアート (isononyl isononanoate) を含有する少なくとも1つの油相と(ii) 粉末化合物を含有する少なくとも1つの粒状相とを含んで成る無水組成物、特に、化粧品、皮膚科学的、衛生品、および薬剤学的組成物において、イソノニル=イソノナノアートが組成物の全重量に対して少なくとも10重量%の濃度で存在し、粉末化合物が組成物の全重量に対して少なくとも10重量%の濃度で存在し、油相がさらに、シリコーン油を含有し、前記シリコーン油が組成物の全重量に対して5重量%以上の濃度で存在することを特徴とする無水組成物である。

【0007】本発明はまた、皮膚および/または頭皮の非治療的なトリートメント方法、特にマークアップ方法であって、上記で定義した組成物を、皮膚または粘膜および/または頭皮に適用することからなる方法に関する。

【0008】本発明により使用される組成物は特に柔軟であることが見い出されており、脂っぽさやべたつき感がなく、容易に、均一に適用して延ばすことが可能である。軽い手触りを有し、1日中心地良さを残すものである。本発明による組成物は、さらに、良好な感覚と化粧品特性、特に、良好なマット効果と良好な被覆力、一様性、および保持力を有する。

【0009】本発明による無水組成物は、一様性、均一性のマークアップを付与するものである。さらに、皮膚に適用すると、皮膚のしわおよび/または顔のしわに移動しない優位性を有する。

【0010】本発明の組成物は、無水組成物である。“無水組成物”なる表現は、組成物の全重量に対して、3%よりも少ない、好ましくは1%よりも少ない水を含有する組成物を意味する。さらに好ましくは、組成物は、全く水を含有しないものである。本発明による組成物は、組成物の全重量に対して、少なくとも10重量%のイソノニル=イソノナノアートである液状脂肪エステルを含有する油相を含んでなるものである。

【0011】本発明の目的においては、“油相”なる表現は、室温で液体である脂肪物質からなる相を意味する。好ましくは、イソノニル=イソノナノアートは、組成物の全重量に対して、10から40重量%の範囲であってもよい濃度で、組成物中に存在する。さらに好ましくは、該含有量は、組成物の全重量に対して、15から35重量%の範囲である。

【0012】イソノニル=イソノナノアートに相当する

商業的に入手可能な製品としては、“Caschem”社から販売されている”Wickenol 151”、“Alzo”社から販売されている”Dermol 99”、または、“SEPPIC”社から販売されている”Lanol 99”が挙げられる。

【0013】本発明による組成物はまた、組成物の全重量に対して、5重量%以上の濃度で存在するシリコーン油を含有する。好ましくは、該シリコーン油の量は、組成物の全重量に対して、5から55重量%、より好ましくは5から25重量%、さらに好ましくは10から25重量%の範囲である。

【0014】本発明により使用可能なシリコーン油は、以下のものから選択可能である。

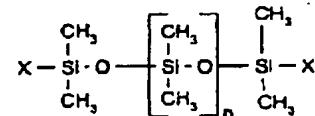
— 3から8のケイ素原子、好ましくは4から6のケイ素原子を含有する環状揮発性シリコーン、たとえば、シクロテトラジメチルシリコサン、シクロペントジメチルシリコサン、またはシクロヘキサジメチルシリコサン；特に、ダウコーニング社から”DC Fluid 244”、“DC Fluid 245”、“DC Fluid 344”および”DC Fluid 345”の商品名で販売されている製品；

— 2から9のケイ素原子を含有する直鎖状揮発性シリコーン、たとえば、ヘキサメチルジシリコサン、ヘキシリルヘプタメチルトリシリコサン、およびオクチルヘプタメチルトリシリコサン；

— 一般式：

【0015】

【化2】



【0016】(式中、

— Xは-CH₃またはOHであり、
— nは、0から2000の整数である)で表わされ、好ましくは粘度が25°Cで0.06m²/s以下のポリジメチルシリコサン；特に、ダウコーニング社から”Dow Corning Fluid 200”の商品名で販売されているものが挙げられ、特に、ワッカー社から”AK”の商品名で販売されている製品、ジェネラルエレクトリック社から”SF”の商品名で販売されている製品、ゴールドシュミット社から”Abil”の商品名で販売されているもの、たとえば”Abil 10”製品；

— アルキルメチルポリシリコサン、特に、ポリ(C₁-C₂₀)アルキルシリコサン、たとえばフェニルシリコーン油またはセチルジメチコーン(CTFA名)；
— ジメチルシリコサン/メチルアルキルシリコサンタイプのシクロコポリマー、たとえばユニオンカーバイド社から”silicone FZ 3109”的商品名で販売されているものであって、ジメチルシリコサン/メチルオクチルシリコサンシクロコポリマー；

【0017】— 任意にフェニル化またはヒドロキシル

化したポリシロキサンであるシリコーンゴムであって、ポリジメチルシロキサンまたはポリフェニルシロキサン油、またはシクロメチコーン等の、溶媒に溶解した場合、約200,000から1,000,000の高分子量と、500,000mPa·sよりも大きい粘度を有するシリコーンゴム；

— ポリジメチルシロキサンまたはポリフェニルシロキサン油、またはシクロメチコーン等の、溶媒に溶解した場合の、単位 $R_3SiO_{1/2}$ 、 $R_2SiO_{2/2}$ 、 $RSiO_{3/2}$ 、および $SiO_{4/2}$ （式中、Rは水素、 C_1-C_6 アルキル基、またはフェニル基である）の組み合わせを含有するシリコーン樹脂；および／または

— これらの混合物。

【0018】好ましくは、本発明による組成物は、フェニルトリメチコーンを含有しないものである。油相はまた、イソノニル=イソノナノアート以外のオイルおよびシリコーンオイルを含有してもよい。

【0019】本発明により使用可能な前記他のオイルとしては、イソノニル=イソノナノアート以外の脂肪エステルであって、以下のものが挙げられる。

— 分岐 C_8-C_{16} エステル、たとえばイソヘキシル=ネオペンタノアート、

— 合成エステル、たとえば式： R^1COOR^2 （式中、 R^1 は6から29の炭素原子を含有する高級脂肪酸残基を示し、 R^2 は3から30の炭素原子を含有する炭化水素ベースの鎖を示す）のオイル、たとえば、ブルセリン油、イソプロピル=ミリスタート、2-エチルヘキシル=パルミタート、イソステアリル=ネオペンタノアート、イソプロピル=ステアラート、イソプロピル=ラノラート、イソトリデシル=イソノナノアート、2-オクチルドデシル=ステアラート、2-オクチルドデシル=エルカート、イソステアリル=イソステアラート、アラキジル=プロピオナート、2-オクチルドデシル=ベンゾアート；ヒドロキシル化エステル、たとえばイソステアリル=ラクタート、オクチル=ヒドロキシステアラート、オクチルドデシル=ヒドロキシステアラート、ジイソステアリル=マラート、トリイソセチル=シトラート；ポリオールエステル、たとえばプロピレングリコール=ジオクタノアート、ネオペンチルグリコール=ジヘプタノアート、ジエチレングリコール=ジイソノナノアート、およびペンタエリスリトールエステル；

【0020】— 12から16の炭素原子を有する脂肪アルコール、たとえば、オクチルドデカノール、2-ブチルオクタノール、2-ヘキシルデカノール、2-ウンデシルペンタデカノール、およびオレイルアルコール、— 炭化水素をベースとした植物油、たとえば、液状脂肪酸のトリグリセリド、カプリル／カプリン酸トリグリセリド、たとえばステアリネリーズデュボア社から販売されているもの、または、ダイナミットノーベル社から”Miglyol 810”、“Miglyol 812”、“Miglyol 81

8”の商品名で販売されているもの、または、小麦胚芽油、コーン油、ひまわり油、カリテバター、ひまし油、スイートアーモンド油、マカデミア油、アーピコット油、ダイズ油、綿実油、アルファルファ油、ポピー油、パンプキン油、ゴマ油、髓（marrow）油、アボカド油、ヘーゼルナッツ油、グレープシード油、ブラックカラントシード油、月見草油、きび油、大麦油、キノア（quin oa）油、オリーブ油、ライ麦油、サフラワー油、びゃくだん油、とけいそう油、ムスクローズ油；これらの植物油は25°C以下の温度で液体であるという特別な特徴を有する；

【0021】— 動物、植物または鉱物由来の油、たとえば、ワセリン、ダイズ油、ひまわり油、胡麻油、西洋あぶらな油、スイートアーモンド油、マカデミア油、ブラックカラントシード油、カリテバター、およびその液状留分、またはペルヒドロスクアレン；

— 炭化水素ベースの油、たとえば、水素化イソパラフィン、たとえばパルレアム（parleam）、特に揮発性 C_8-C_{16} イソパラフィン油、たとえばイソドデカン、イソデカン、およびイソヘキサデカン、

【0022】— フルオロ油、特にペルフルオロポリエーテルが挙げられ、たとえば、モンテフロー社から”Fomblin”の商品名で販売されている製品、並びにフルオロシリコーン、たとえばトリフルオロメチル（ C_1-C_4 ）アルキルジメチコーン、たとえば、シンエツ社から”X 22819”の商品名で販売されている製品；および／または

— これらの混合物。

【0023】油相は、たとえば、組成物の全重量に対して、5から20重量%の脂肪アルコールを含有してもよい。好ましくは、また、油相は、イソノニル=イソノナノアート以外の脂肪エステルまたはこれらの混合物を、組成物の全重量に対して、0.1から30重量%、好ましくは5から20重量%の範囲であってもよい濃度で含有してもよい。

【0024】本発明の好ましい1つの実施態様によれば、油相は、イソノニル=イソノナノアート、脂肪エステル、およびシリコーン油、および／またはこれらの混合物のみからなる。好ましくはまた、イソノニル=イソノナノアートが、油相の全重量に対して、少なくとも15重量%、好ましくは少なくとも30重量%の濃度で存在する。

【0025】本発明による組成物はまた、化粧品組成物中に通常使用される、充填剤および／またはビグメントおよび／または光沢剤および／またはこれらの混合物から選択される粉末化合物を含有する粒状相を含有する。粉末化合物は、組成物の全重量に対して、少なくとも10重量%の濃度で存在する。

【0026】組成物の全重量に対して、5-40重量%の比率で組成物中に存在していてもよい充填剤は、鉱物

または合成物であってもよく、ラメラまたは非ラメラであってもよい。タルク、マイカ、シリカ、カオリン、テフロン（ポリテトラフルオロエチレン）、澱粉、天然真珠層、塩化ホウ素、微球体たとえば”Expance”（ノーベルインダストリー社）および微球体たとえば”Polytrap”（ダウコーニング社）が挙げられる。球状充填剤、たとえばポリエチレンパウダー、ナイロンパウダー、シリコーン樹脂ミクロビーズ（トウシバ社からの”Tospearls”）、およびシリカ微球体も使用可能である。

【0027】好ましくは、微球体としては、特に、シリカ、テフロン、ナイロン、タルク、マイカ、および／またはカオリンの微球体が使用される。本発明の1つの好ましい実施態様においては、充填剤は、組成物の全重量に対して、10から25重量%の濃度で存在してもよい。

【0028】ピグメントは、組成物の全重量に対して、0.1から30重量%までの範囲の濃度で組成物中に存在してもよい。これらは、白色または着色したものであってもよく、鉱物および／または有機物であってもよい。鉱物性ピグメントとしては、二酸化チタン、二酸化ジルコニウム、二酸化セリウム、並びに、酸化亜鉛、酸化鉄、酸化クロム、フェリックブルー、光沢剤、たとえば酸化チタンで、酸化鉄で、天然ピグメントで、またはオキシ塩化ビスマスで被覆したマイカ、並びに、着色チタンマイカおよび／またはこれらの混合物が挙げられる。有機ピグメントとしては、カーボンブラック、バリウムレーキ、ストロンチウムレーキ、カルシウムレーキ、またはアルミニウムレーキ、および／またはこれらの混合物が挙げられる。ピグメントはまた、疎水性表面を有するものであってもよく、または、表面が疎水性となるように処理されたものであってもよい。該処理は、当業者には公知の方法で行われ、特に、ピグメントはシリコーン化合物、たとえばPDMSおよび／またはポリマーで、特にポリエチレンおよび／またはアミノ酸で被覆されてもよい。

【0029】被覆ピグメントとしては、特に、ミヨシ社から”SA”の商品名で販売されているピグメント（PDMS被覆ピグメント）が挙げられる。このように被覆されたピグメントは、本発明による組成物中に、組成物の全重量に対して、0.1から30重量%までの比率で組み入れられてもよい。本発明の好ましい1つの実施態様においては、ピグメントは、組成物の全重量に対して、少なくとも2重量%、好ましくは8から15重量%の濃度で存在する。

【0030】光沢剤は、組成物の全重量に対して、0-30重量%、好ましくは10から20重量%の濃度で組成物中に存在してもよい。予想される光沢剤としては、天然真珠層、酸化チタンで、酸化鉄で、天然ピグメントで、またはオキシ塩化ビスマスで被覆したマイカ、並びに、着色チタンマイカであってもよい。本発明による組

成物はまた、上記オイル以外の脂肪物質、たとえばワックスまたはペースト状脂肪物質を含有してもよい。”ワックス”なる用語は、室温で固体である脂肪物質を意味する。

【0031】ペースト状脂肪物質は、以下の物理化学特性の少なくとも1つによって定義可能である。

- 60Hzの回転数でMS-r3またはMS-r4ローターを装備した”Contraves”TVロータリー粘度計を用いて、40°Cで測定して、0.1から40Pa.s（1から400ポアズ）の粘度、

- 25-70°C、好ましくは25-55°Cの融点。

【0032】本発明により使用可能なワックスとしては、以下のものが挙げられる。

- 動物由來のワックス、たとえばビーズワックス、鯨ロウ、ラノリンワックス、およびラノリン誘導体、植物ワックス、たとえばカルナウバワックス、カンデリラワックス、オーリキュリーワックス、木ロウ、ココアバターまたはコルク繊維ワックス、またはサトウキビワックス、

- 鉱物ワックス、たとえばパラフィンワックス、鉱油ワックス、亜炭ワックス、またはミクロクリスタリンワックス、またはオゾケライト、

- 合成ワックス、たとえば、ポリエチレンワックス、ポリテトラフルオロエチレンワックス、およびフィッシャートロッシュ合成で得られたワックス、

- シリコーンワックス、特に置換された直鎖状ポリシリコン；ポリエーテルシリコーンワックス、16から45の炭素原子を含有するアルキルまたはアルコキシジメチコーン、アルキルメチコーン、たとえば、ダウコーニング社から”AMS C 30”的商品名で販売されているC₃₀-C₄₅アルキルメチコーン、

- 25°Cで固体の水素化オイル、たとえば水素化ヒマシ油、水素化ホホバ油、水素化ヤシ油、水素化亜麻油、水素化ココナツ油、及び、25°Cで固体の脂肪エステル、たとえばコスタークーネン社から”Kester Wax K82H”的商品名で販売されているC₂₀-C₄₀アルキル=ステアラート、

- および／またはこれらの混合物。

【0033】好ましくは、ポリエチレンワックス、ミクロクリスタリンワックス、カルナウバワックス、水素化ホホバ油、カンデリラワックス、および／またはこれらの混合物が使用される。好ましくは、ワックスが、組成物の全重量に対して、少なくとも2重量%、好ましくは6から15重量%の濃度で存在する。

【0034】脂肪物質は特に、所望の特性、たとえば粘稠性または手触りを有する組成物を調製するために、当業者によって、種々の方法で特に選択可能なものである。組成物に組み入れられる他の脂溶性添加剤としては、親油性UVスクリーニング剤、ビタミン、および他の親油性の化粧品活性剤、酸化防止剤、香料、およびセラ

ミドが挙げられる。

【0035】本発明による組成物はまた、化粧品として、薬剤学的に、または衛生品として許容される媒体を含有可能である。この場合、化粧品、薬剤学、または衛生品分野において通常使用されている種々の添加剤、たとえば酸化防止剤、染料、香料、精油、防腐剤、化粧品活性剤、モイスチャライザー、ビタミン、スフィンゴ脂質、親油性ポリマー、特に、脂肪物質と適合する炭化水素ベースの親油性ポリマー、たとえばポリブテン、ポリアルキレン、ポリアクリラート、およびシリコーンポリマーを含有可能である。これらの添加剤は、組成物中に、0-15重量%存在可能である。

【0036】無論、当業者には明らかに、本発明による組成物の優位な特性がこれらの添加物によって悪影響を受けないように、または実質的に悪影響を受けないように、これらの任意添加化合物および/またはその量を選択可能であろう。

【0037】本発明による組成物は、化粧品製品、特にボディおよび/またはフェースおよび/または頭皮用ケ

- イソノニル=イソノナノアート x%
- 2-エチルヘキシル=パルミタート 合計 100%
- イソプロピル=ラノラート 5%
- ワックス 6%
- ピグメント 22%
- ナイロンパウダー 16%
- PTFEワックス 7%
- シリコーン油(ポリジメチルシロキサン) 8%
-----	-----
組成物	イソノニル=イソノナノアートの%
-----	-----
組成物A(本発明)	10
組成物B(比較)	5
-----	-----

【0041】2-エチルヘキシル=パルミタートのパーセントで全体を100%に調節する。組成物AおよびBは、たとえばファンデーションであってもよい。これらは、以下の方法にしたがって調製した。すなわち、ピグメントをシリコーン中で粉にする。ワックスを次いで溶融するまで加熱する。脂肪エステル、シリコーン中で粉にしたピグメント、次いで充填剤を、加熱を継続しながらワックスに添加する。最後に、混合物を皿に注ぐ。組

成物：

- 油性エステル 30%
- 2-エチルヘキシル=パルミタート 7%
- イソプロピル=ラノラート 5%
- 植物ワックス 6%
- ピグメント 22%
- ナイロンパウダー 16%
- PTFEワックス 7%
- シリコーン油(ポリジメチルシロキサン) 7%

ア製品、または、マークアップ製品、特に、ファンデーション、コンシーラ、フェースパウダー、アイシャドウ、アイライナー、マスカラ、またはリップスティック、またはボディ用マークアップ製品の形態であってもよい。本発明による組成物は、流動クリームまたはスティック、または柔軟ペーストの形態であってもよい。

【0038】本発明による組成物は、当業者に良く知られた無水組成物を調製するための通常方法にしたがって、調製される。好ましくは、本発明による組成物は、ワックスを溶融し、次いで組成物の他の成分を加え、最後に皿に入れることによって製造された流込製品(cast product)である。好ましくは、本発明による組成物は、流込ファンデーションである。

【0039】本発明を以下の実施例を挙げてより明確に例解する。全実施例中、量は、組成物の全重量に対して、重量%で表わされる。

【0040】

【実施例】実施例1：比較

出願人は、以下の組成物を調製した。

成物Aは、容易に延び、組成物Bと比較すると、より柔軟でマークアップしやすい。さらに、手触りが細やかで、より心地良いものである。

【0042】実施例2：比較

出願人は、以下の、本発明による組成物C、本発明によるものではない組成物D、E、F(組成物Cと同一であるが、イソノニル=イソノナノアートが他の油性エステルに置換された)を調製した。

組成物	油性エステル
組成物C (本発明)	イソノニル=イソノナノアート
組成物D (比較)	イソトリデシル=イソノナノアート
組成物E (比較)	2-エチルヘキシル=パルミタート
組成物F (比較)	イソステアリル=ネオペンタノアート

【0043】組成物CからFは、実施例1と同様の方法にしたがって調製した。組成物Cは、非常に柔軟であり、特に良好に延びる。組成物Cを用いて得られたマークアップは、よりナチュラルで、組成物DからFで得られたマークアップよりも、乾燥ゾーンおよび穴部をより目立たせないものである。組成物Cは、組成物DからFを適用した場合よりも、よりオイリーでなく、よりべた付かない

ものである。組成物Cの手触りは細やかで、製品は、組成物DからFを用いた場合よりも表面に残らない。

【0044】実施例3：5%のイソプロピル=ラノラートを5%のシリコーン油(ポリジメチルシロキサン)に置き換えて、実施例1の組成物Aを調製する。得られた組成物は、柔軟で、特に良好に延びる。適用時には、べた付きまたは脂っぽさを感じない。